

第41回夏季大学「新しい気象学」開講のお知らせ～気象のシミュレーションII～

教育と普及委員会

主 催：日本気象学会

後 援：気象庁，日本地学教育学会，(財)気象業務
支援センター，日本気象予報士会

日本気象学会は，最新の気象学の普及を目指して，毎年夏季大学を開催しています。そして，昨年からは，高校で物理を履修した大学初年次程度を受講生を想定した講義で構成しています。

今年のテーマは「気象のシミュレーションII」です。コンピュータ演算能力の向上，リモート観測技術やデータ同化技術の発展などにより，気象のシミュレーション技術は飛躍的に発展し，現在の天気予報の基盤技術のひとつとなっています。気象現象のモデル化やシミュレーション結果の利用法，さらには海洋における現象のシミュレーションといった講義を通じてシミュレーションの意義や役割を明らかにします。また，リモート観測の代表である気象衛星の雲画像を使い，解析の基礎を実習形式で学んでいただきます。

○日程，講義題目，講師

平成19年8月4日（土）

9：00～10：30「気象モデルにおける雲の取り扱い」

中村晃三（地球環境フロンティア研究センター）

10：45～12：15「大気環境影響評価」

近藤祐昭（産業技術総合研究所）

13：15～14：45「短・中期数値予報の応用利用」

安藤昭芳（気象庁数値予報課）

15：00～16：30「数値モデルによる台風予測」

上野 充（気象研究所）

平成19年8月5日（日）

9：00～10：30「波浪・高潮の物理と数値モデルによる予測」

高野洋雄（気象研究所）

10：45～12：15「津波予報への数値シミュレーション技術の活用」

林 豊（気象研究所）

13：15～16：30「SATAIDを用いた雲画像解析」（実習）

西村修司（気象庁予報課）

気象庁案内図



○講義会場

気象庁講堂（東京都千代田区大手町1-3-4）

会場の地図は，気象庁ウェブサイト (<http://www.kishou.go.jp/intro/map.html>) をご覧ください。

○募集対象と人数

高校の物理で履修する程度の知識をお持ちの方（講義では簡単な微分方程式を使用します）
定員50名程度

○受講料（消費税含む）

一般5,000円，学会員・学生4,500円

参加申込受付後，郵便口座をお知らせしますので，そちらに受講料の振込をお願いします。

○講義資料

受講者の方には，事前に講義レジюмеをオンライン配布します。また，「教育と普及委員会」ウェブサイトには，昨年の資料が公開されていますので，ご覧ください。

○参加申込方法

インターネットの普及を受け、ウェブ・フォームによるオンライン受付を原則とさせていただきます。詳細は、「教育と普及委員会」ウェブサイト (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/msj/kyoikuhukyu/>) をご覧ください。

インターネットへの接続環境をお持ちでない方

は、下記事務局にお問い合わせください。

○参加申込締切日

平成19年7月13日（金）

○お問い合わせ先

気象庁内 日本気象学会事務局

Tel. 03-3212-8341（内線2546） Fax. 03-3216-4401